

# 夏型行楽地の傾向強まる

## 観光客五%減・宿泊客五・六%増

### 五十四年 観光統計まとめ

市では、毎年日光への「観光客の入込」と「宿泊状況」の統計をとっていますが、このほど昨年（五十四年一月～十二月）の観光統計がまとまりました。

統計によれば、昨年中に日光へやって来た観光客の総数は、七百七十七万一千人と推定され、前年五十三年度の七百五十五万人と比較すると、三十七万九千人の減少、率にすると五%も少なくなっています。この傾向は、全国的な傾向でもあったようです。

一方、来兎者のうちの「宿泊客」について調べてみた数字では、宿泊客総数が百四十五万人で、前年の百三十七万三千余人と比較すると、七万六千七百人の増で、約五・六%多くなっていることがわかりました。

### 十月・八月・五月の順

#### 極端に少ない冬

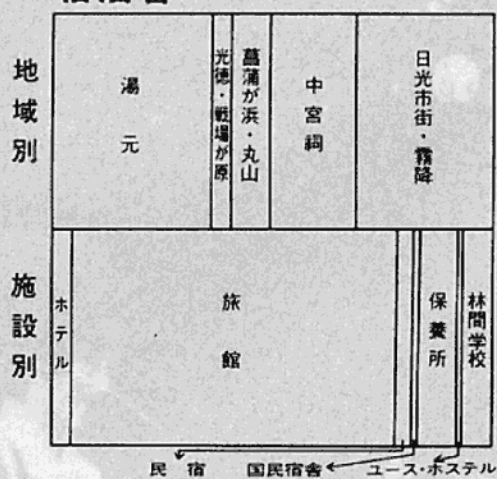
日光への観光客の利用交通機関別調査では、国鉄五十四万人で、前年比七・三%減、東武九十一万

人で、前年比一%減、外来車は、五百四十四万一千人で、前年比二・一%減と、いずれも減少しています。

### 入込客



### 宿泊客



八%、五月 一一・五%、九月 一〇・一%、七月 一〇・〇%の順。しかし、十二月と一月が、共に三・三%、二月 三・六%と少ないベスト三が、冬に集中して残念です。

### 伸び見せる宿泊者数

#### 八月は一八%も

宿泊についての調査では、地域別の概数が、湯元 五十二万六千人、(三三・三%) 光徳・戦場が原 五万六千人(三・八%) 菫蒲が浜・丸山 十一万六千人(八・〇%) 中宮祠 二十八万八千人(一九・九%) 日光市街・霧降 四十六万四千人(三二・〇%)で、宿泊客は、菫蒲が浜・丸山を除いて、いずれも前年より増加しています。これを十年前の昭和四十五年を一〇〇とした比率で見ると、湯元 一一・二%、光徳・戦場が原 一七・五%、菫蒲が浜・丸山 一六七%、中宮祠 八七%、日光市街・霧降 一三二%となります。

宿泊者を月別に見ると、八月 一八・〇%、十月 一三・七%、七月 一三・二%、五月 一二・九%、六月 一一・〇%、九月

一〇・四%の順で、秋型から夏型に移りつつあるようです。

### 日光らしく

#### 学生団体が約半数

宿泊者の種類別では、一般 四三・一%、一般団体 七・三%、学生団体 四八・九%、外国人 〇・七%となっていて、最近十年間の傾向としては、一般が横ばい、一般団体が減少、学生団体が増加、外国人が減少となっていて、一般団体が予想外に少なく、学生団体が約半数をしめるという、いかにも日光らしい特徴を示しています。

### 利用者増加が目立つ

#### ホテル・民宿・林間学校

宿泊者が利用した施設(一)内は施設数別の比率は、ホテル(四) 四・七%、旅館(八九) 七四・二%、民宿(三〇) 三・六%、国民宿舎(二) 一・七%、保養所(四) 八・四%、ユース・ホステル(二) 〇・七%、林間学校(二) 六・六%で、旅館が全体の四分の三をしめています。最近五年間、増加傾向にあるのは、ホテル、旅館、民宿、林間学校、横ばいが、国民宿舎、保養所、減少傾向がユース・ホステル

表紙のことば  
表紙シリーズ  
日光むかしがたり

### 日光和楽踊り

大正二年九月六日、天皇陛下を、翌七日には、皇后陛下を精銅所にお迎えした。当時の民間工場としては、全く例のないことで、精銅所は、破格の光栄に浴したのであった。この前代未聞の盛大事も無事に終って、一同がホットしたその夜、当時の所長が、所員一同を、玉座となつた事務所(現記念館)裏の小庭園に集めて、めでたく何事もなく終つたことの祝賀の小宴を開いた。宴もたけなわに、感きわまつて「踊ろうじゃないか」とい出したものがあつた。それに和して「では私が音頭をとりますよ」と祝宴の手伝いに來ていた一人の老婆が、美声で唄い出したので、居合せた一同が踊り出したということである。

翌大正三年、所長はこの光栄の日を永く記念するため、七月一日の創業記念日と併せて、毎年盛大な記念祭を挙行することとし、さっそく県庁に踊りの許可願いを提出した。当時県では、盆踊りは風紀